

あなたは靈的に完全に死んでいたし、主を見つけるために何かする能力も全くありませんでした。ただ、主があなたを見つけて下さったのです。だからハガルは言っています。

「私が主を探していたのではない。主が逃亡者の私を、苦しい状況にいた私を、ご覧になったのだ。」

創世記16:13

彼女は自分に語りかけた主の名を「あなたはエル・ロイ（私を見てくださる神）」と呼んだ。

ここで彼女が同意したことを見て下さい。

創世記16:9

主の使いは彼女に言った。

「あなたの女主人のもとに帰りなさい。

そして、彼女のもとで身を低くしなさい。」

ハガルは戻ります。

彼女は「すみませんが、できません。」と言うこともできました。

しかし「分かりました。」そう言って帰ったのです。

サライはまだひどい態度で、とても意地悪だったのに。

主の使い、主ご自身がハガルに

「あなたの女主人のもとに帰りなさい。そして、彼女のもとで身を低くしなさい。」

と言った時、彼女はそうしました。

「主が私を見て下さっている」と自分が言った言葉のゆえに。

彼女が井戸に付けた名前のゆえに。

創世記16:14

それゆえ、その井戸はベエル・ラハイ・ロイ（私を見てくださる方の井戸）と呼ばれた。

これは文字通り、“人生のビジョンの井戸”

「主は私を見ておられる。私に人生のビジョンを与えて下さる。」

それで、主が「しなさい」と言った通り、従順に従ったのです。

私は天国でハガルに会えると思っていますよ。

彼女は、主がどういう方であるかはっきり悟り、主が言われたことに従った信者ですから。

人は心で信じ、口で告白して救われます。

彼女は告白しました。

心で信じて、主を主として認識しました。それは主に従うということです。

ローマ10:9-10

9 もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら（つまり主が監督者であり、主人であるという意味）、あなたは救われるからです。

10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

私は天国でハガルに会えると思っています。

そこにサラもいますよ。

でも、もう敵対心はありません。

面白いと思ったのは、御使いがハガルに言ったことです。

創世記16:11-12

11 「あなたは身ごもって 男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい。

彼は大いなる国民となる。

12 彼は、野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。」

彼は野ろばのような人になる。

もし中東に行く機会があれば、というよりこれに関しては、エルサレムの旧市街のアラブ人地区に行ってみて下さい。

その所で、主が言ったことが、ものすごく興味深い形で実現しているのを見て下さい。

最も関心を惹きつける多彩な人々、イシュマエルの子孫。

でも、とても荒々しい。

私は世界中の様々な場所に行きましたが、御言葉をあそこ以上に感じる場所は...

どう言えばいいのか...恐れでもなく、恐怖でもなく、脆さでもない。

エルサレム旧市街のアラブ人地区は、レバノンの階段状になっている山脈の頂上の状況よりも、アラブ人の村の中心にいるよりも、御言葉の成就をより強く感じます。

これは興味深いことです。

この人たちは、まさに主が言った通りなのですから。

もちろん全員ではありませんが、ただ集団として非常に興味を引く感覚を持っている。

それを感じる事ができるのです。

エルサレムに行くと、あそこは結構な都会ですが、イシュマエルの子孫の区域とイサクの子孫の区域では、本当に違いを感じますよ。

中傷でも偏見でも有害発言でもなく、ただ、そうなのです。

神は言いました。

「ハガル、あなたは大いなる国民を生む。それは、イシュマエルから出る。」（創世記17:20）ただし、

創世記16:12

「彼は、野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼は、すべての兄弟に敵対して住む。」

「厳しい状況になるだろう。興味深いことになるだろう。」

さて、それはともかくとして、これは、あの日ハガルに与えられた約束です。

創世記16:15-16

15 ハガルはアブラムに男の子を産んだ。（言われた通り。）

アブラムは、ハガルが産んだその男の子をイシュマエルと名づけた。

16 ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。

創世記17:1

さて、アブラムが九十九歳のとき、主はアブラムに現れ、こう言われた。

「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。」

13年経って！なんと長い年月が過ぎたことか。

日曜に言いましたが、念頭に置いて下さい。

アブラムに主が現れるまでの間、大きな時間のギャップがあって、何年もの月日が過ぎ去りました。

アブラムが最後に直接主の声を聞いて以来、少なくとも15年です。

彼は主の声を毎日聞いていたのではないにしろ、話を読んでみると、神は彼に絶えず話しかけていたよう

に見えます。

でも、そうではありません。

神は、アブラムが信仰の人になるようにされていたのです。

信仰とは、見るところによって歩くのではありません。(IIコリント5:7)

目で見えるものや、耳で聞こえるものや、知識として知っているものではなく、御言葉があらかじめ告げたことをただ握りしめる。

信仰。

これについては日曜日にお話しました。

信仰は、天国での通貨。永遠の共通語。

信仰を学ばなければなりません。

私たちは見ることができず、聞こえず、起こっていることの意味を理解する能力がない場合に、唯一信仰を学ぶことができます。

「見えず、聞こえず、意味が分からない時、主よ、あなたが御言葉で語って下さいました。」

皆さん、それほど遠くない過去を、ちょっと振り返ってみて下さい。

責めるものではありませんよ。

ただ、正直に評価してみましょう。

(涙声で)「これは絶対に終わった。」と思った時。

「何もかもめちゃくちゃだ。どうしてこんな事に...信じられない...」

あなたが、最後にそんな状態にあった時のことを思い出して下さい。

私はすぐに思い出せますよ。先週です。

もしあなたが私のようなら、恥ずかしくないですか。恥だと思いませんか。

だって、全てが無事収まったのだから。

そして、あなたは今夜ここにいる。

あらゆる不平不満や不安、手をこまねいていた事も、いかなる意見も、全ての事がどんな事であれ、「もう、どうにもならない!」と思ったことが、どうにかなったのです。

「絶対に無理だ!」

無理じゃなかった。

もし日記をつけているなら、5年前、7年前に書いた内容を読んでみて下さい。

とても面白い実験になります。

あなたが正直に書いていけばですが。

「信じられない! 一体どうなっているの?」など、ブツブツ ブツブツ...

今振り返ると、「なんてこった! 今は全部、ちゃんとなっているじゃないか!」

そこで疑問に思うのは、なぜ神は、そのように事が起こるのを許したのか。

それは、あなたや私に信仰の男、信仰の女、信仰の人になることを教えるため。

ただ静かに、確信を持って信じられるようになるためです。

神は御座におられ、全てを支配しておられる。

全てを働かせて益として下さる。

神はあなたを、私を、引っ張っておられる。

「でも、この間の試練の時、上手くできなかったよ...」

心配しないで。すぐにまた、次のが来ますから。

「ジョン、こんなテストは嫌いだよ。」

なら、合格しなさいよ。それだけです。合格すること。
なぜなら、試練はまたやって来ますから。
あなたは手をこまねいて、涙を流しそうになるでしょう。
怒りを感じたり、何であれ、あなたの肉は反応するでしょう。
これに合格しなさい。
そしたら次のがやって来る。
もしかしたら、あなたはその最中にいるかもしれません。
来年まで来ないかもしれないけど、いずれにしてもすぐに次のがやって来ます。
でも、今度は泣かないで。文句を言わないで。嘆かないで。パニックにならないで。
「もう、このテストにはうんざりだ。今度は合格しよう。」
「パニックにならない。誰かの肩を借りて泣いたりしない。ただ、主を賛美しよう。」
「とにかく、このテストに合格しよう。」

神のテストの良い点はこれです。よく聞いて下さい。
私は抜き打ちテストが大嫌いでした。
物理のランナー先生が、「よし。今日は抜き打ちテストだ。」と言った日には、「なんてこった！」
大っ嫌い。ゲロしそう。本当に具合が悪くなったんです。
抜き打ちテストは思わぬ時にあります。
でも神のテストの良いところは、ランナー先生とは違って持ち込み可。
答えは既に神が与えてくれている。
答えはここ、聖書にある。
「ジョン、テストをするよ。でも持ち込み可だから、ノートと教科書を見直しなさい。」
「はい、分かりました。」
全部、聖書の持ち込み可。答えは既にこの中にあります。
これが、神のテストの良いところです。

ということで、神はアブラムに、ある期間を経験させます。
約15年間、彼は神から何も聞きませんでした。
でも大丈夫！
神はアブラムに、信仰によってどのように歩むかを教えていたから。
神は彼を信仰の人にしていたのです。

そして今、神はアブラムに言いました。
「アブラム、あなたは99歳だ。」
「ゆっくりしなさい。そろそろ隠居の時期だな。」
ではなく、「立ち上がりなさい。」「もっと上に行って欲しい。」「全き者になって欲しい。」
これ、見て下さい。

創世記17:1

さて、アブラムが九十九歳のとき、主はアブラムに現れ、こう言われた。

「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。」

私も全き者になろうとして、必死で頑張りましたができませんでした。

「あなたはわたしの前を歩み、成熟しなさい。」と言われたのなら、どんなに良かったらうと思います。

意味は「完成しなさい。」

しかし、ここではもっと強い言葉が使われていて、まさに言葉の通りを意味しています。

「アブラム、あなたも今や99歳だ。しっかりしなさい。そして、全き者になりなさい。」

「でも神様、どうすればなれるのですか。」

神の言葉に注目。

神は「全き者になれ」と勧告する前に、「アブラム、そろそろ時が来た。隠居ではなく、更に上に行く時だ。」

皆さんも年齢を重ねているかもしれないし、今夜35歳を過ぎているかも知れませんが、気づくべきです。

「まあ、そろそろゆっくり、好きな事をしようじゃないか。」

「今まではそんな事しなかったんだけど、もういい年だし、よろしいんじゃない？」

いいえ、正反対ですよ。

神は年長者の皆さん、35歳以上の人たちに言っています。

「そろそろ、しっかりしなさい。」

私は今37歳ですが、神は言われました。

「ジョン、そろそろ上に行くべきだよ。」

あなたがようやく気づいた通り、するべき事をする時だ。全き者になりなさい。」

「でも主よ、どうして私がそんな風になれますか。」

「わたしは全能の神である。」

“最初の言及”を覚えていますか。

ここで『全能の神 / エル・シャダイ』が初めて使われました。

神の新しい名前です。

何度も何度も出てきます。

「わたしはエル・シャダイである。」

「わたしは『全き者であれ』と勧告する前に、わたしの特性の啓示をあなたに与えよう。」

それはエル・シャダイ。

エルは神の名前で、「右手」という強い存在。力こぶが盛り上がった強い腕。エル。

イメージ的には男らしい強さ。そしてパワー。

それがこの神、エルという名。

強さ、パワー、男らしさ。

しかし興味深いのは、「わたしはエル・シャダイ」と言われた点です。

生まれたての赤ちゃんを養い育てる女性の乳房を意味する“シャド”という言葉は、“シャダイ”から来ています。

このコンビネーションは実に驚きです。

「アブラム、どのようにして全き者になるのか？」

「わたしは強く、男らしい者である。わたしの大いなる右手をもって、あなたを乗り越えさせよう。」

そしてわたしは、母親が乳児を育てるように、愛をもってあなたを養い育てよう。」

力強い男らしさと、女性の優しさ。

注目すべきコンビネーション。

この全てが、『エル・シャダイ / 全能の神』という1つの名前に包括されているのです。

ところでそのために、聖書の律法である旧約聖書には、女性と男性の適切な役割について多く語られているのです。

男性は女性のような格好をせず、女性は男性のような格好をしない。

その罰則は非常に厳しいものです。

なぜなら、男性は男らしくなければならないから。

10～12年前、私たちは“アラン・アルダ期”を経験しました。

「本当の男はキッシュを食べるか？」とか、フィル・ドナヒューとか。

その時代の人たちは覚えているでしょう。

男は常に泣いて、繊細でなければならないとか...

それから続いてモーリー・ヤード。

「私たちもブルドーザーを運転できる！」とか「ヘルメットを寄こしなさい！」とかなんとか、あらゆる女性の主張。

これら全てが、私たちの文化が経験してきた過激派フェミニストの幻覚症状というか...

女性たちは「ジャックハンマーを寄こしなさい！」と言い、男性たちは「キッシュを下さい。お願いします。」

もう、全てがあべこべで、メチャクチャで、文化的にとっても残念な時代でした。

男はメソメソして、女はブルドーザーを運転して。

その行く末は？

マイケル・ジャクソン...

神は御言葉の中で警告しています。

「男は男らしく、女は女らしく。」

なぜなら、男が男らしく、女が女らしくあるなら、男女が一緒になって、エル・シャダイの特徴を現わすことができるからです。

男性が男らしさを失って、優しい戦士だかなんだか今日ようになり、女性が女らしさを失ってしまったら、私たちが実際に抱くのは、神の性質である繊細な感受性が欠如した“意気地なしの神”のイメージ。

神は男が男であることを、女が女であることを望んでおられます。

何も「マッチョ（筋肉隆々）になれ」と言っているのではありません。

ところで、マッチョというスペイン語の意味を知っていますか。

“ラバのような”。これが文字通りの意味です。

またこれは、「おい、メシ！今すぐだ！」などと、ふんぞり返るのとは全く意味が違います。

これはエル/神が言っておられることではなく、ただの肉の行いにすぎません。

私は「それが役割だ」と言っているのではなく、ただ「男は男らしくあれ」と言っているのです。

そのアイデンティティを持ち、強さをもつ。

そうすれば、強さが求められる場面で、彼らは立派に行うことができるから。

自分の欲望、あなた自身の夢、必要に死ぬのです。

本当の男でなければ、イエスのようには死ねません。

本当の男でなければ、ペテロのようには死ねません。

彼は逆さ十字にかかりました。

「私は自分のやり方を妻に押し付けない。」というのは、本当の男にしかできない事です。

「私は自分の願望に、必要に、夢に、やり方に死ぬ。」

「私は死に、今日、今夜、妻を喜ばせることを考えよう。彼女を最も喜ばせることを行おう。

エル・シャダイの力によって。」

私たちは自分の思いに死ぬるだけの、本当の強さを見せる男にならなければなりません。

女性たちは、自分の役割が強くあることではなく、シャダイのように優しくあること、養い、与えることだと理解しなければなりません。

それが神の性質であり、神のやり方。

神は、男と女がそれぞれの役割を果たすことを願っておられます。
そうして男女は共に、天の父のご性質を現す者となるのです。
エル・シャダイ。
全き者であれ。

つづく

マタイ12:33

木を良いとし、その実も良いとするか、木を悪いとし、その実も悪いとするか、どちらかです。
木の良し悪しはその実によって分かります。

「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル4:7

メッセージby ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波

DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。
どうか、りょくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。